



手の平を開いたハブ空間のような形 建物や地形を「みどり」で包む建築緑化

平成 23 年度 第 20 回建築作品 優秀賞 (株)高田建築設計事務所(長岡市)

サポートセンター摂田屋 プチ・リップチ Support center settaya Petit ripuchi

サテライト特別養護老人ホーム



「グリーン」を軸とした建築・緑化の考え



両ウィングには、各居室やホール・廊下などの「グリーン」があり、天井・床・壁が自然素材で、天井・床・壁が自然素材で、天井・床・壁が自然素材で



デッキは、各戸の玄関、門灯と郵便受けも完備



各居室へのアプローチはスロープ



居室の内装も温かみのある素材を多く使用

コンセプト



ごく自然の居場所を求めて！

- ・当たり前居場所を求めて！
- ・山から里へ！
- ・断続から継続へ！
- ・特殊から普通へ！
- ・計画者視点から生活者視点へ！
- ・非日常から日常へ！
- ・施設から我が家へ！



かつては介護が必要になった時、日常から離れた景観の良い山に行こうと言う風潮があった。その事は、生活空間として記憶されてきた風景が切断されることであり、遠隔地になった関係上、親近者とのコミュニケーションも途絶えがちになり認知症が進む事例も報告されている。介護が特殊な扱いとして隔離された位置に置かれるのではなく、人間の生老病死のリズムの中で当たり前、ごく自然に取り扱われることが求められている。人と風景も断絶しないことである。機能性を追求した合理的な仕組みは、時に計画者をして生活者を非日常に押し込んでしまう。当介護施設は生まれ育った地で、ごく普通の居場所を取り戻すためのプロジェクトでもあり、住宅地に自然に溶け込むことの重要性を要求されたミッションでもあった。

小規模多機能型居宅介護施設・地域交流室



緑の多い中、デッキがカフェテラス



「ハブ空間」を軸とした建築・緑化の考え



隣接する1Fグループホームと2Fユニバーサルハイツ

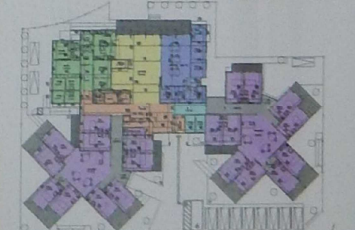
施設概要

長岡市摂田屋にあるリップチの森に、サテライト特別養護老人ホーム・小規模多機能型居宅介護施設・地域交流室を兼ね備えた「サポートセンター摂田屋」(通称:プチリップチ)が2010年に完成した。

全体計画は、街並みに合うように、小さな家々が集まった形。施設には地域の方と語ることができるカフェテラス、子供連とふれあうキッズスペースもあり、様々な世代交流の場所として活用することができる。

隣接してグループホーム(認知症対応型共同生活介護)とユニバーサルハイツ(在宅支援型住宅)が2011年に完成した。

敷地面積 1973.12㎡
建築面積 1039.67㎡
延床面積 972.29㎡



敷地全体を緑化し、手のひらを開いたようなプランニングは、各個室へ涼風を採り入れるに最適であり、ラジエーター効果も期待できる。基礎スペースを緑化する事で、蒸散作用(蒸発冷却)を活用する。地面と建物を直接する基礎部分を土・石・緑で包むことで、親和的なエレベーションが誕生。

ちいき交流の場

小規模多機能室と地域交流室をオープンすることで、町内会行事やお茶会など多目的な集まりに利用され、地域の方々と世代を越えた交流の場となる



講演会



ちいき交流



お茶会



摂田屋議員団の議員たちによるクリスマス会開催とふれあい



各邸ごとのちいき交流場



各邸ごとのちいき交流場